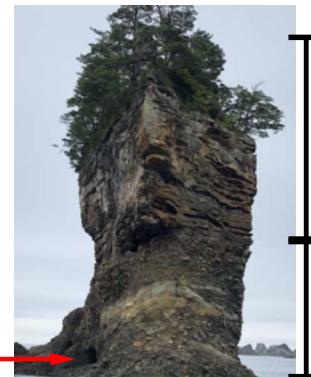


■ 三王岩大地のメッセージ

三王岩は1億年1千万年前の宮古層群からなっています。男岩の地層は(右図の写真)上部が田野畠層(たのはたそう)、下部が羅賀層(らがそう)です。羅賀層は浸食に弱く大きく削られ下部の海蝕洞の一つは外海に貫通しています。このように羅賀層は浸食に弱いのですが、田野畠層は暖かく浅い海で堆積したために貝殻やサンゴの破片がたくさん含まれ硬く固まっています。



捕獲岩(ゼリフ)

マグマが上昇して地表に噴出(ふんしゅつ)するまでの間に取り込まれた岩石であり、熱変成(ねつへんせい)を受けていることが多く母岩(ぼがん)と起源が異なる外来(がいらい)捕獲岩起源を同じくする同源(どげん)捕獲岩に分類されます。

玉ねぎ状風化
(オーバンクラック)

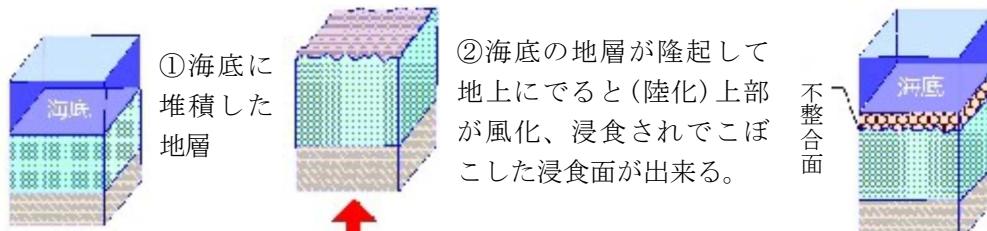
田老花崗岩は比較的浅いところでマグマが冷えて固まってきたため、鉱物の大きさが揃っていません。田老花崗岩は冷えるにつれ収縮して数方向にひび割れしてブロック状になっています。ひびにしみ込んだ水はブロックの中心

に向かって風化を進めます。ここではブロックの中心部が球状に残っているたまねぎ状風化が見られます。



宮古層群の不整合面

三王岩の対岸には白亜紀(はくあき)の花崗岩体(かこうがんたい)の一つであるたろう花崗岩を「宮古層群(1億1000万年前から2000万年前)の礫層(れきそう)が不整合におおっています。この不整合はどのような過程で出来たのでしょうか?不整合は堆積の中止、陸化のあった証明です。不整合面のすぐ上にある礫岩のことを「基底礫岩」(きていれきがん)といいます。この場合羅賀層がそれにあたります。



③この地層が沈降しその浸食の上に新しい地層が水平に堆積します。このような下の地層と上の地層との間に堆積の中止がある関係を不整合といいます。

田老地区の中生代白亜紀の化石

「三王岩から化石は見つかっていないですか?」とお客様から問い合わせがございました。三王岩に近い荒谷(ありや)地区でキマトセラス(オーム貝)の化石が見つかっています。又田老接待(せつたい)にある「大島」からは示準化石であるアンモナイトが見つかっています。*示準化石=特定の年代だけに生きていた生き物の化石で、それによって地層の年代がわかる。



田老乙部荒谷地区の平井賀層から産出
所蔵: 宮古市崎山貝塚
縄文の森ミュージアム



田老「大島」は化石の宝庫です。白いものは全て化石です。
写真提供: 宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム



大島から見つかったアンモナイト(パラホブリティス)。
所蔵: 金澤修一氏
出典: 大地創造(岩泉町)

田老「大島」宮古層群分布図

